

専大スポーツ

No. 311

大会結果、予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からアクセス)でご確認ください
専大スポーツ編集部 web (http://sensupo.web.fc2.com/) でも大会結果を配信しています

スピードスケート・日本学生氷上競技選手権



男子スピード部門 3年ぶり総合優勝

1月6日から9日まで、北海道の苫小牧市ハイルンドスポーツセンター屋外リンクで、日本学生氷上競技選手権(氷上インカレ)が行われ、専大は男子スピード部門で3年ぶり13回目の総合優勝を果たした。

「メンバー全員が欠けることなく戦えたことが結果につながった。総合優勝は春からみんなで目標にしていたので、本当にうれしい。学生最後の大会での優勝ということも大きい。最高の結果を残せた」と、喜びを語った坂井洗太(経営4・白樺学園高)。自身も

▲ スピード部門で優勝したメンバー

スキー・全日本学生アルペンチャンピオン大会 女子 渡邊が各種目で上位入賞



▲ 好成績を残した渡邊

全日本学生アルペンチャンピオン大会が1月4日から9日まで、長野県の志賀高原西館山スキー場で行われ、渡邊久瑠美(経済4・新発田商高)が女子スパーコンビナンドで2位。また、大会2日目と4日目の行われた同大会で、両日とも3位と好成績を残した。

清水香帆(飯山南高・法4)は、最終日の女子回転で3位となった。

主将として迎えた今年シーズンについて、「今季は個人練習を減らし、スキー部全体で練習する機会を増やした。一緒にトレーニングすることで、個人としての力を上げることができた」と勝因について語り、岩手県で行われるインカレ(全日本学生選手権、2月20日)での個人と団体戦の優勝を目標に掲げた。

(林 裕太・法1)

1000級、1500級でそれぞれ2位と、好成績を残した。また、1年次生ながら1万円で2位、5000円で4位となった田中洗司(経済1・苫小牧工



▶ 2種目で2位となった坂井主将

返った。「個人的には全日本大会で良い結果を残したい」と、今後の意気込みを語った。

主入賞者は次の通り。
【500級】大塚樹(経済3・吉田高)

関東学生選手権 団体2位

1月14、15の両日、山梨県の富士急ハイランドセイコオーバルで関東学生選手権が行われた。4年次生が欠場するなか、

梨山の富士急ハイランド入賞するなど健闘した。団体は男子総合で2位、5連覇を逃した。

フェンシング・JOCジュニア・オリンピック・カップ

男子サーブル 張真が2位に

1月7日から10日まで、駒沢オリンピック公園体育館でJOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会が行われ、張真(経済1・佐

張真は、強豪相手にも気後れすることなく果敢に攻め続ける攻撃的なプレーを展開。準々決勝では、あと1点で負けが決まるという逆境に追い込まれるも、勝利に対する執念の剣さばきで逆転勝利。そのままの勢いで決勝に進出したが、あと一歩及ばなかった。

「前半で相手の出方や動きを分析し、それを生かして後半で一気に押し返すように努めた。しかし、内心は緊張や不安でいっぱい、自分としては気持ちで負けていたと思う」と、プレーからは

卓球・全日本選手権 混合ダブルスで久住が6位入賞

1月17日から22日まで、東京体育館で全日本卓球選手権が行われた。混合ダブルスで、久住昭博(経営1・北海道尚志学園高)・鈴木せり奈(札幌大谷高)の北海道代表ペアが、4回戦まで順調に勝ち上がるものの、準々決勝で吉村・石川ペア(山口県代表)に1-3で敗れ、6位入賞となった。

松尾駿(経済4・八戸西高) 4位 [2000級] 大塚・坂井 4位 [2000級]

久長聖高)・小林拓斗(経済3・岡谷南高) 組 4位 [2000級]

張真は、強豪相手にも気後れすることなく果敢に攻め続ける攻撃的なプレーを展開。準々決勝では、あと1点で負けが決まるという逆境に追い込まれるも、勝利に対する執念の剣さばきで逆転勝利。そのままの勢いで決勝に進出したが、あと一歩及ばなかった。

卓球・全日本選手権 混合ダブルスで久住が6位入賞

1月17日から22日まで、東京体育館で全日本卓球選手権が行われた。混合ダブルスで、久住昭博(経営1・北海道尚志学園高)・鈴木せり奈(札幌大谷高)の北海道代表ペアが、4回戦まで順調に勝ち上がるものの、準々決勝で吉村・石川ペア(山口県代表)に1-3で敗れ、6位入賞となった。

国際大会 出場選手

※種目はエペ。日本代表。張真 龍太 シュニアワールドカップ・ハンガリー大会(2月17日) 日ハハンガリー・ブダペスト市

ラグビー部次期監督に就任する村田氏

7カ年計画で大学選手権の優勝争いを!



4月2日から専大の監督一本での活動をする予定だ。

「専大ラグビー部は走るチームを目指し、フレッチャブルで7人制をかけたような新しいラグビーを目指したい。サッカー部がインカレ初出場初優勝して、専大体育会も活気を帯びてきている。ラグビー、野球、陸上なども近いうちに必ず浮上する」と頼もしいコメントを残した。

1月27日、神田キャンパスで村田氏のラグビー部次期監督就任記者会見が行われた。同部OBで、昨年からの同部のアドバイザーと、7人制ラグビー日本代表の監督を両立してきたが、今年の

自動車部80周年記念式典を開催

自動車部の創部80周年記念式典が1月21日、神田キャンパスで催された。内山哲朗部長(経済学部教授)をはじめとした関係者、卒業生、現役部員ら約120人が出席。㈱日本自動車連盟(JAF)の田中節夫会長による記念講演などが行われた。引き続き、同会場で祝賀会が開かれた。黒住晃一監督による部員紹介などが行われ、出席者たちは親交を深めた。

特別編



レスリング部

木村 政貴 (経営1・高)



次の新人戦優勝へメンタル面鍛える

レスリング部の1年次のフリースタイル74kg級で準優勝を経験した木村の活躍が目立った。高校時代に、専大入学後は、4月に全国高校総合体育大会で行われたJOC杯

来季は「次の新人戦で優勝したい。メンタル面を鍛えて気持ちを強く持って臨みたい」と答えた。

ジュニアオリンピックの同種目で3位入賞。この冬は、体づくりの春季、秋季ともに同種目での上位入賞を目指している。同種目の選手と比べ、筋力が少ない分、細かいプレーや技術でカバーするスタイルが持ち味。入学当初は、大学のパワーやスピード